

市長メッセージ No.18

感染急増～年末年始、感染防止のため最大限の警戒を！

市民の皆さま、事業者の皆さまには、新型コロナウイルスの感染防止と社会経済活動の回復に日々ご尽力をいただき、心より感謝申し上げます。とりわけ、医療の最前線で献身的に従事されている医療・保健関係者の皆さまに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

本市における新型コロナウイルスの感染例は、12月に入って急増、クラスター（感染集団）も既に3例確認されました。感染の連鎖は、飲食店ばかりでなく、事業所や家庭、さらには児童関連施設や病院など、身近なところまで波及しています。

現在のところ、大方の感染経路は追跡できているものの、新規感染者数の比率は東京・大阪程度に上昇しており、市中感染になりつつある状況です。

今後新年3日までの間、最大限の警戒をお願いします。

「もしかしたら自分が感染しているかもしれない、大事な人を守らなければ。」という観点に立った対応が重要です。

外出自粛までにはいたりませんが、市民の皆さま、事業者の皆さまには、それぞれの警戒レベルを最大限に引き上げ、下記事項に沿って、感染防止対策を徹底いただきますようお願いいたします。

なお、感染症の患者さんやご家族、医療関係者等への誹謗・中傷、偏見・差別は、人を傷つけ、地域の分断も招きます。決して行わないよう、強くお願いいたします。

穏やかな新年を迎えることができるよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

1. 会食について

- ① 家族等普段から一緒にいる人以外との会食、大人数での会食、長時間に及ぶ会食は自粛してください。
- ② 住宅でのクリスマスパーティーや忘年会・新年会を予定されている方もいると思いますが、ホームパーティーでもクラスターが発生しています。家族等普段から一緒にいる人以外とのホームパーティーも控えてください。
- ③ 普段一緒にいる人との間でも、会話時のマスク着用、人と人との距離の確保など、参加者の誰かが感染しているかもしれないとの観点に立った感染防止対策の徹底をお願いします。

2. 帰省について

- ① 帰省する方には、帰省2週間前から大人数での会食への参加を控えるなど、できるだけ感染機会の回避に努めていただくようお願いしてください。
- ② 帰省する方と過ごすに当たっては、その人が感染しているかもしれないという想定の下、3密回避を含め基本的な感染防止策を徹底するとともに、特に大人数の会食を行わないなど、高齢者等への感染につながらないように注意してください。
- ③ ①②の対応が難しい場合又は帰省者に発熱等の症状がある場合は、帰省を見送るよう働きかけをお願いします。

3. 一人一人の感染防止対策の徹底について

- ① 家庭内や近い方と一緒にいる場合でも、マスク着用、こまめな手洗い、3密回避など、基本的な感染防止対策の徹底をお願いします。
- ② 家庭や職場内において、室温に注意しながら、窓を開けての換気、適度な保湿に取り組んでください。
- ③ 感染リスクが高まる「5つの場面」はできるだけ避けてください。
- ④ 会食の際、マスクなしで会話した場合の感染が多くなっています。会話をする場合は、必ずマスク着用をお願いします。
- ⑤ 居場所が切り替わった場合の感染も多くみられます。休憩室や喫煙室、更衣室、昼食時などでも注意を怠らないようにして下さい。
- ⑥ トランプなど多くの方が共有して遊ぶゲームは感染リスクが高まりますのでご注意ください。
- ⑦ 発熱、せきなど感染が疑われる症状がある場合には、出勤や登校等は行わず、イベント等にも参加しないようお願いします。
そして、速やかに、かかりつけ医のある方はかかりつけ医に、かかりつけ医のない方は発熱外来(発熱外来受診相談電話024-535-3025)に、電話予約をとって受診してください。
その他、感染の不安がある場合には、早めに新型コロナウイルス一般相談電話(0120-567-177)にご相談ください。
- ⑧ PCR 検査で一度「陰性」とされた方であっても、症状が出た場合には上記連絡先にご連絡ください。

4. 事業者の皆さまへ

- ① 本市での急増の要因を分析すると、基本的対策が不十分な状態での営業や事業者間の接触が、感染拡大の背景になっているものと考えられます。
- ② 改めて業種別ガイドラインを点検し、マスク着用をはじめ業種別ガイドラインの遵守・徹底をお願いします。
- ③ 福島駅東口地区の接待を伴う飲食店を対象に、従業員等の PCR 検査を実施していますので、働く方と利用者の安全安心のためにも、積極的にお申し込みください(詳しくは市 HP で。)
- ④ 居酒屋など③以外の飲食店についても、できる限りご希望に応じておりますので、新型コロナウイルス検査相談電話(024-573-5227)までご相談ください。
- ⑤ PCR 検査で一度「陰性」とされた方であっても、発熱等の健康チェックを徹底し、症状がみられる場合には3. ⑦に沿ってご連絡ください。

令和2年12月17日
福島市長 木幡 浩

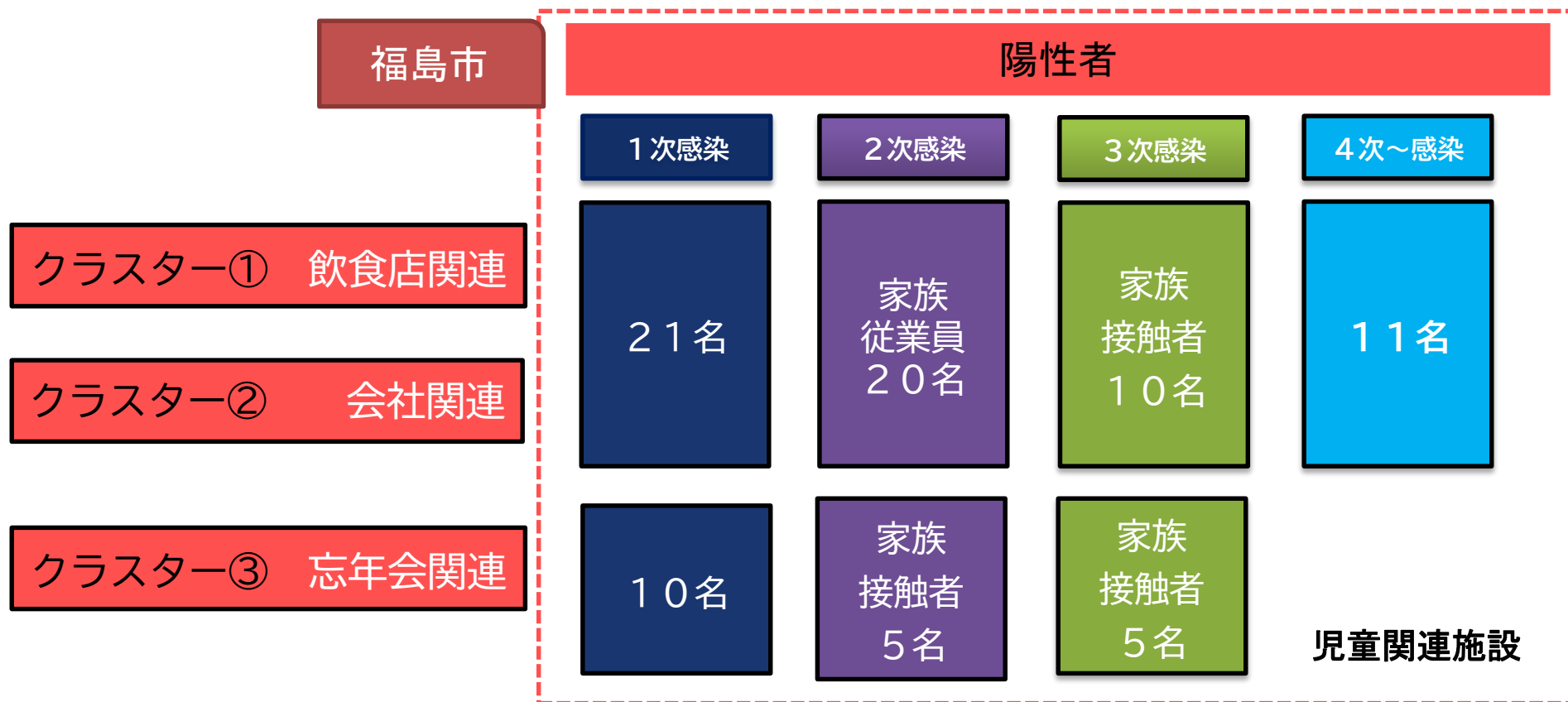
福島市の感染状況（10～12月のみ）令和2年12月17日発表まで

10月	11月	12月
6名	35名	111名

12月に入り感染者が急増

福島市で発生した3つのクラスターの状況

令和2年12月17日発表まで



※市外への拡大・病院での感染

評価	感染の広がりがみられる。 陽性者の先には家庭内感染がある。(2次・3次・4次感染～) いずれのクラスターにも、飲食店関係者がおり、今後もPCR検査を進めていく。
----	--

発熱や咳など風邪の症状がある場合

かかりつけ医がない方

かかりつけ医がいる方

どこに相談してよいかわからない場合

福島市発熱外来(予約制)

福島第一病院



※各プレハブ診察室

大原総合病院



新設

福島赤十字病院



新設

開設日
令和2年11月16日(月)

開設日
令和2年11月20日(金)

診察(医師の判断により検査を実施)

インフルエンザ
検査(約15分)

新型コロナウイルス
抗原検査(約30分)

薬の処方

かかりつけ医など身近な医療機関

診療・検査医療機関



診察(医師の判断により
検査を実施)

新型コロナウイルス
PCR検査・抗原検査

薬の処方

一般医療機関



診察(コロナ検査なし)

薬の処方

受診・相談センター
(コールセンター)

【電話】0120-567-747
【受付】平日休日問わず
24時間対応

対応できる医療機関
「診療・検査医療機関」
を案内

※発熱等の症状がある方は事前に医療機関に電話相談をしてから受診してください。

<発熱外来>

診療日・時間

月曜日から金曜日 午後2時から午後4時まで(祝日・年末年始除く)

電話予約(福島市発熱外来受診相談電話)

024-535-3025 当日診療受付分のみ(午前9時から午前11時30分まで)

寒冷な場面における新型コロナ感染防止等のポイント

1. 基本的な感染防止対策の実施

○マスクを着用

（ウイルスを移さない）

○人と人の距離を確保

（1mを目安に）

○「5つの場面」「感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫」を参考に

○3密を避ける、大声を出さない

2. 寒い環境でも換気の実施

○機械換気による常時換気を

（強制的に換気を行うもので2003年7月以降は住宅にも設置。）

○機械換気が設置されていない場合は、室温が下がらない範囲で

常時窓開け（窓を少し開け、室温は18℃以上を目安！）

また、連続した部屋等を用いた2段階の換気やHEPAフィルター付きの空気清浄機の使用も考えられる

（例：使用していない部屋の窓を大きく開ける）

○飲食店等で可能な場合は、CO2センサーを設置し、二酸化炭素濃度をモニターし、適切な換気により1000ppm以下（*）を維持

*機械換気の場合。窓開け換気の場合は目安。

3. 適度な保湿（湿度40%以上を目安）

○換気しながら加湿を

（加湿器使用や洗濯物の室内干し）

○こまめな拭き掃除を

『5つの場面』

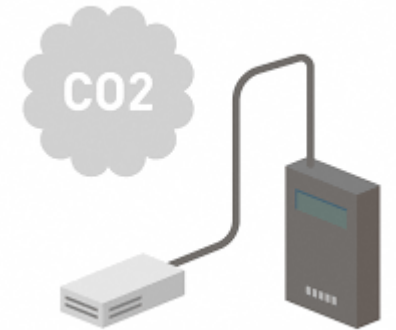
場面1：飲酒を伴う懇親会

場面2：大人数や長時間におよぶ飲食

場面3：マスクなしでの会話

場面4：狭い空間での共同生活

場面5：居場所の切り替わり



CO2センサー

感染リスクが高まる「5つの場面」

場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で気分が高揚すると同時に注意力が低下する。また、聴覚が鈍麻し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用が感染のリスクを高める。



場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、接待を伴う飲食、深夜のはしご酒では、短時間の食事に比べて、感染リスクが高まる。
- 大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



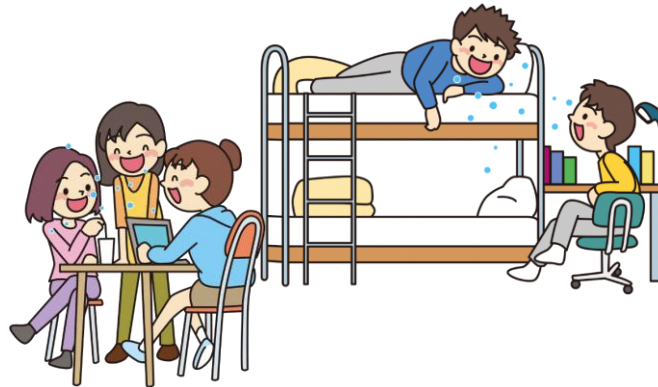
場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケなどでの事例が確認されている。
- 車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。



場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用部分での感染が疑われる事例が報告されている。



場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での感染が疑われる事例が確認されている。



感染リスクを下げながら会食を楽しむ工夫

<利用者>

- ・飲酒をするのであれば、①少人数・短時間で、
 - ②なるべく普段一緒にいる人と、
 - ③深酒・はしご酒などはひかえ、適度な酒量で。
- ・箸やコップは使い回さず、一人ひとりで。
- ・座の配置は斜め向かいに。（正面や真横はなるべく避ける）
（食事の際に、正面や真横に座った場合には感染したが、斜め向かいに座った場合には感染しなかった報告事例あり。）
- ・会話する時はなるべくマスク着用。（フェイスシールド・マウスシールド※¹はマスクに比べ効果が弱いことに留意が必要※²。）
 - ※¹ フェイスシールドはもともとマスクと併用し眼からの飛沫感染防止のため、マウスシールドはこれまで一部産業界から使われてきたものである。
 - ※² 新型コロナウイルス感染防止効果については、今後さらなるエビデンスの蓄積が必要。
- ・換気が適切になされているなどの工夫をしている、ガイドライン★を遵守したお店で。
- ・体調が悪い人は参加しない。

<お店>

- ・お店はガイドライン★の遵守を。
（例えば、従業員の体調管理やマスク着用、席ごとのアクリル板の効果的な設置、換気と組み合わせた適切な扇風機の利用などの工夫も。）
- ・利用者に上記の留意事項の遵守や、
接触確認アプリ（COCOA）のダウンロードを働きかける。

【飲酒の場面も含め、全ての場面でこれからも引き続き守ってほしいこと】

- ・基本はマスク着用や三密回避。室内では換気を良くして。
- ・集まりは、少人数・短時間にして。
- ・大声を出さず会話はできるだけ静かに。
- ・共用施設の清掃・消毒、手洗い・アルコール消毒の徹底を。

★従業員で感染者が出たある飲食店では、ガイドラインを遵守しており、窓を開けるなど換気もされ、客同士の間隔も一定開けられていたことから、利用客（100名超）からの感染者は出なかった。